



地の利生かし存在感高める

入社から13年ほど神奈川県内の現場を担当し、その後、地元の中部圏に移って工事畑を歩いた。3年前、北信越支社長に着任し、この春、再び古巣の中部支社に戻った。「サラリーマン人生の半分以上を中部圏で過ごした地の利

を生かし、存在意義のある企業として『不撓（ふとつ）不屈』の精神で、『信為万事本』をモットーに頑張る」と意気込む。

通しの良い組織運営を心掛ける。競争環境が厳しくなる中で「部署間のコミュニケーションを活性化し、情報共有すること」で商機が広がると思われる。進むべきベクトルを合わせ、「支社一丸で競争を勝ち抜く」と気を吐く。

スに、経営目標に挑戦できる環境整備に力を注ぐ。支社管内の各部署を回りながらトップの思いを直接伝える。「承認・称賛の企業文化を築き、特に営業所や工場など現場のエンゲージメントを高めた」と話し、誰もが働きたい職場づくりに奔走する。

相手の立場を考えながら「信用・信頼」を第一に、目の前の仕事に取り組んできた。自身の行動や選択で悩んだ時のよりどころは「誠」の一文の育成では厳しさをもちつつも、誠の心で接したい」。趣味の食べ歩きは入念に下調べし、目当てのお店や周辺の観光地を夫婦で巡る。（4月1日就任。三重県出身、61歳）

